

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期間	人数制限
社会福祉論			11369	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
西橋 隆三	選択	2	元市職員(福祉事務所長・障がい児療育センター所長) 社会福祉士			

授業の到達目標

高齢化・少子化が同時進行している現代の社会状況の中で、福祉、介護、医療等の問題には誰もが直面することとなる。これらの福祉問題の内容を理解し深く考えていくことは、福祉の専門分野に携わっていくためには不可欠なことである。授業では社会福祉の理念、制度や援助などを広い視野から学び主体的に考える力を身に付ける。このクラスでは主にKAISEIパーソナリティのI(知性)とS(奉仕)を養う。

授業の概要

授業では、社会福祉に関する基本的な項目を学習するとともに、最新のデータや資料によりわが国の社会福祉の動向や課題等を理解できるようにする。指定する教科書の構成に従い授業を進めるが、時事的な問題やキーワードとなる内容などは討議しながら内容を深めて確認する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 社会福祉とわたしたち
- 3 社会福祉の歴史の変遷
- 4 社会福祉の理念(意味と考え方)
- 5 現代社会の生活問題と社会福祉
- 6 社会福祉行政と実施体系
- 7 社会福祉と社会保障の制度(生活保護制度を中心に)
- 8 社会福祉の専門職
- 9 共生社会の実現と障害者施策
- 10 子ども家庭福祉と社会福祉
- 11 少子高齢社会と子育て支援
- 12 社会福祉における相談援助
- 13 社会福祉における利用者保護にかかわる仕組み及び医療福祉
- 14 社会福祉の課題(在宅・地域福祉)
- 15 まとめ講義とレポートの提出

授業の方法

講義を主体としながら視聴覚教材やディスカッションを取り入れていく。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点40%、レポート60%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は不合格とする。

テキスト

一瀬早百合「社会福祉とわたしたち」萌文書林 2022年
また、授業の中で必要な資料を配布する。

参考図書

必要な参考図書については授業の中で提示する。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期間	人数制限
人権教育論			11373	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
松井 敦	選択	2	中学校教諭中学校教頭小学校校長			

授業の到達目標

人権教育の基本的な概念や、社会にある様々な人権侵害事象について理解し、人権問題に対する知見を深めるとともに人権感覚を高めて実践力を養う。そして学校での人権学習の具体的な方法や、このクラスではKAISEIパーソナリティI(知性)とS(奉仕)を養い、人権が尊重される社会を作るにはどうすればよいか、学校教育の中でどうすればよいかを考察する過程で、K(思いやり)の諸能力を生かす。

授業の概要

人権教育は、人権尊重の理念に対する理解を深め、生命の尊厳を基盤に、他に対する肯定的な態度と共生社会の実現に主体的に取り組む実践力を育成するための教育である。授業では、社会にある様々な人権問題や人権侵害事象についての知見を深めながら、目と鼻の間の人権意識や人権感覚についても検証し、人権が尊重される社会を作るにはどうすればよいか、教育の中でどうすればよいかを考察する。

授業計画

- 1 ☆人権教育とは？
・「人権問題」にはどんなものがあるか？・今まで学校で受けてきた「人権教育」は？・「戦争」と「人権」・「新型コロナウイルス感染症」と「人権」
- 2 ☆差別はなぜ起こるのか？
・「震災」と「震災デマ」・フェイクニュース・なぜ人は「人権侵害」するのか？・「人権教育」とは？
- 3 ☆人権教育を推進するために
・「人権問題」を考えるにあたって大切なことは？
- 4 ☆同和問題を考える①
・同和問題(部落差別)って何？
- 5 ☆同和問題を考える②
・同和問題(部落差別)とは・同和問題の歴史
- 6 ☆同和問題を考える③
・同和对策審議会答申・33年にわたる同和对策事業・見えにくい「部落差別」問題・部落差別解消推進法・「寝た子」はネットで起こされる
- 7 ☆ヘイトスピーチを考える ～在日コリアンの理解～
・外国人と人権・朝鮮半島と日本の関係・「在日コリアン」とは？・ヘイトスピーチ解消法
- 8 ☆障がい者理解
・人権三法・障害者差別解消法・「障害を理由とする差別」とは・合理的配慮
- 9 ☆特別支援教育・インクルーシブ教育
・特別支援教育をめぐる制度改正・インクルーシブ教育システ

ム」とは・日本のインクルーシブ教育の現状と課題

- 10 ☆いじめ問題を考える
・いじめ防止対策推進法・いじめ防止基本方針・いじめが起こったらどう対応するか？・「いじめ」をどう教えるか？・情報モラル教育
- 11 ☆セクシャルマイノリティの理解
・性の多様性に関する基礎知識・日本の「性的マイノリティ教育」の現状・性的指向に関する世界の状況
- 12 ☆人権感覚・基本的人権
・日本の「ジェンダー・ギャップ指数」・自分自身の人権感覚をみつめてみる・人権自己診断・改めて「基本的人権」を考える
- 13 ☆世界人権宣言・子どもの権利条約・ユニセフ(UNICEF)・国連児童基金
- 14 ☆SDGsから考える人権教育
- 15 ☆まとめテスト(小論文)

授業の方法

毎回配布するレジメ・資料を中心にパワーポイントを使って講義を進める。また視聴覚教材を活用しながら社会にある様々な人権侵害事象についての学習を深める。また人権感覚を磨く方法や、人権教育の在り方について考察し、実際の取り組み方を学ぶ。

準備学修

報道される人権問題に関心を持っておくこと。毎回配布されるレジメやプリントをファイルし、整理保存すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえず欠席する時は事前事後に届け出ること。

テキスト

参考図書

授業の中で適宜紹介する。

留意事項

毎回の授業のレジメと資料をファイルに整理し、最後に提出。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
地域子育て支援 II			17503	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	1	公立保育所保育士			

授業の到達目標

子育て支援とは何か。子育て支援に対する保育者の役割が明確化され、幼稚園や保育所で子育て支援について様々な場や対象に即した支援を行っている。その中で地域の子育て家庭に対する支援について、実践を通し具体的に理解し、積極的に取り組んでいける保育者をめざす。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を考え、I（知性）を養う。

授業の概要

子育てを社会全体で支える「子ども・子育て支援新制度」がスタートし、幼稚園、保育所、地域で子育て支援が盛んに行われている状況の中、子育て支援とは何かを考え、保育者をめざしている学生が何故子育て支援が必要なのか、親子が求める子育て支援とは何かを考え、親子が育ちあうような子育て支援のあり方を学習する。また、子育て支援の実践を積極的に体験する。

授業計画

- 1 地域子育て支援 I の振り返り。
- 2 地域子育て支援の取り組みへの参加(1)
- 3 地域子育て支援の取り組みへの参加(2)
- 4 地域子育て支援の取り組みへの参加(3)
- 5 地域子育て支援の取り組みへの参加(4)
- 6 地域子育て支援の取り組みへの参加(5)
- 7 地域子育て支援の取り組みへの参加(6)
- 8 振り返りとまとめ。

授業の方法

演習を中心とし、実際体験によって理解を深める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

必要資料については、随時プリントを配布する。

参考図書

子育ての変貌と次世代育成支援 原田正文著
世界に学ぼう！子育て支援 汐見稔幸著
地域で子育て 渡辺顕一郎編著
あそびうた大全集 永岡書店

留意事項

受講者は子育て支援に関心のあるもの。本学が行う子育て支援事業「海星子育てひろば」に参加し、実践を行い子育て支援の理解を深め、また、保育技術の向上を図る。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については、教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ボランティア論			17505	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
西橋 隆三	選択	2	元市職員（福祉事務所長・障がい児療育センター所長）、社会福祉士			

授業の到達目標

わが国のボランティア活動は、幅広い分野において多様な形態で展開されている。授業では、ボランティアの理念・原則・各分野の基本を学習しながら「興味」「関心のあるテーマ」などから主体的に多様なボランティア活動に参加することを目標とする。またボランティア論の講義を通じて、福祉の対象者への関心を高め、将来の社会参加や社会貢献に繋げることをめざす。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）A（自律）S（奉仕）を養う。

授業の概要

授業では、講義、討議などを織り込みながら、参加のモチベーションを主体的に高めることを促す。「自分にとってのボランティアは何か」「どんな活動ができるか」「ボランティアのあり方は」「ボランティアの意義と課題」などを授業を通じて考えていく。まず基本理念や歴史、組織や活動の実際についての概略を学んだあと、人と防災未来センターや国際協力機構関西センター（JICA関西）での学習により内容を深めていく。次に各分野のボランティア活動の現況を学び、社会福祉施設での授業やボランティア実習も行う。これらの多様な視点からの学びによりそれぞれにとってのボランティアの意義や参加意識を深めていくことがねらいである。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 ボランティアの基本理念(ボランティアを考えるために)
- 3 ボランティアの歴史
- 4 人と防災未来センター及び国際協力機構関西センター(JICA関西)での実習(土曜日)
- 5 災害とボランティア活動(阪神淡路大震災と東日本大震災など)
- 6 国際社会とボランティア活動(JICA関西の事業を中心に)
- 7 社会福祉施設でのボランティア活動
- 8 社会福祉施設での授業とボランティア実習1(土曜日)
- 9 社会福祉施設での授業とボランティア実習2(土曜日)
- 10 子どもの貧困とボランティア活動
- 11 環境問題とボランティア活動
- 12 地域社会とボランティア活動
- 13 医療福祉とボランティア活動
- 14 プレゼンテーション(ボランティア論で学んだことを発表)

15 まとめとしての講義の後、ボランティア論のレポート提出を求める。

授業の方法

講義を主体としながらディスカッション、プレゼンテーションや視聴覚教材を取り入れていく。また人と防災未来センターや国際協力機構関西センター（JICA関西）での実習及び社会福祉施設での実習に参加する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点40%、プレゼンテーション10%、レポート50%で評価します。

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

特に指定はしない。必要な資料を配布する。

参考図書

必要な参考図書については授業の中で提示する。

留意事項

1. 人と防災未来センターと国際協力機構関西センター（JICA関西）での学習に参加すること（土曜日1回）
2. 社会福祉法人での授業とボランティア活動を体験すること（土曜日1回）